



第17回



まちづくり推進会議

平成29年8月1日発行

開催日 平成29年6月27日(火) 18:30~20:30 委員出席者~23人 事務局出席者~18人
開催場所 総合福祉センターうらら 多目的研修室

◆委員の委嘱について

平成23年度から開催してきました「まちづくり推進会議」の委員の任期は2年間となっており、これまで3期6年間で16回開催し、多くのご意見、ご提案を受け、まちづくりに反映させてきました。

本年度からは新たな委員も迎え、4期目が始まりました。今回は、4期目の初会議となりましたので、菊池町長より各委員へ委嘱状を交付しました。



◆町政への住民参画のあり方について

事務局から本町の住民参画に係る検討経過や平成20年に実施した自治基本条例に関するアンケート調査結果、他自治体における条例の制定状況、先進地における自治基本条例の事例について説明を行いました。また、町政への住民参画のあり方について検討を行うために今年度設置された住民参画検討部会で出されたご意見などについても報告を行いました。

~第1回住民参画検討部会で出された主なご意見など~

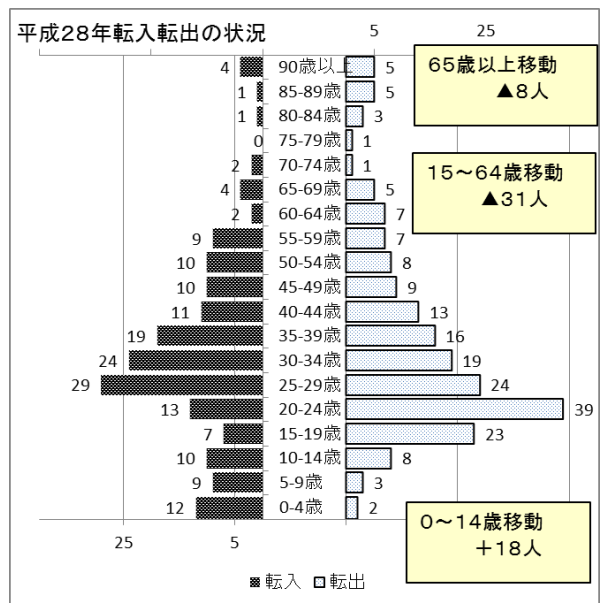
- 委員以外の住民も巻き込んで検討すべき。
- 町民参加のイメージがつかめない。
- 課題や問題をしっかり整理してから進めるべき。

◆「訓子府町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」中間報告について

平成27年10月に策定したこの計画は3年目を迎えたところですが、今回、資料による説明を行い、意見交換を行いました。

○主な質疑・意見は次のとおり

町長：本町の0歳から14歳の人口は、ここ数年増えています。一方、平成28年の15歳から64歳については31人、65歳以上は8人減っています。つまり生産年齢人口と老年人口は減っているが、年少人口は増えているという状況です。また、農業者は予想以上に減っていて、第2次、第3次についても同様です。町では、人口の社会減をできるだけ抑えるためにさまざまな手を打ち出しています。例えば、子どもの人口を増やすために町外の子どもがいる世帯が町内の空き家を購入し、定住した場合に300万円の補助をしていますし、町内事業所から



町内に住むところを整備してほしいとの声がありましたので、現在、8戸の町有住宅を建てる準備をしています。町としてはこのようなことに取り組んでいます。皆さんから、人口問題についてご意見をいただければと思います。

A 委員：(国立社会保障・人口問題研究所の推計では) 訓子府の人口が 2040 年に 3,105 人になってしまいます。その人口で 100 人の町職員を抱えるのは難しいと思います。早く合併などについて考えていかなければならないのではないのでしょうか。

B 委員：人口減も問題ですが、高齢者が安心して暮らしていけるような環境が必要だと思います。昨年、地域でささえあいプロジェクトを開催しましたが、その時に 10 年後には、高齢者 1 人を生産年齢層 1 人で支えなければならないという推計を提示されて、すごくショックを受けました。10 年後には、そういう状況になってしまうので、高齢者が安心して暮らしていけるようなまちづくりをお願いしたいです。

C 委員：今の置戸町の人口が約 3,000 人ですので、(人口が減っても) やり方次第で町は維持していけるのではないかと思います。このまま高齢化が進むと、いろいろな補助金などで支出ばかりが増えていきますので、いかに若い世代を取り込んでいくかが大きな課題になると思います。

D 委員：生産年齢人口が減っているようですが、(周りでも) 仕事は訓子府だけ北見に住んでいる人が多いです。訓子府の特徴的な施設や過去の実績などを活用して、人口減少抑制に努めてほしいです。実際に訓子府に住みたいけど、住宅の関係で北見から通っている人もいますので、早めに計画して実行してほしいと思います。

E 委員：どこの市町村も人口が減るので、みんなで他の町と違う魅力のあるものを見つけて、農業試験場やクノール食品などの機関を撤退させないようにし、少しでも人口が増える何かを考えていければいいのではないかと思います。

F 委員：生産年齢人口が減少するということは、税金を納める人が減り、町の財政に大きな影響が出てくるといことなので、どうかしないとうまくいかないと考えます。

G 委員：(計画の中に)「安心して子どもを産み、育てることができる環境を創る」とありますが、保育料が高いように感じる。安心して産んで、仕事ができるということを考えると負担額の部分も考える必要があると思います。

H 委員：ホクレンの実証農場では、農場の管理監督をする人材が増員となるのが予測されますが、そのような方の受け皿(住環境など)をどう整えるかが課題となっています。また、研修のために道内各地からたくさんの方が来ていますが、(市街地までの移動手段の関係から) 町内施設の利用が難しい状況です。その辺りを考えていただければ、別の方向性も見えてくると思います。



I 委員：「安心して子どもを産み、育てることができる環境を創る」ということで、こども園もできましたし、子育て世帯としては魅力ある町になってきていると思いますが、こども園が魅力的で通わせたいと思っても、親たちの働き口を考えると悩む方もいると思います。今後はそうした町の魅力をどう定住につなげていくかが課題になると思います。

J 委員：人口減少は避けられないことだと考えています。除雪なども大変になってきているので、町をコンパクトにまとめることが大事だと思います。

K 委員：計画の中には「安心して」という言葉がたくさんありますが、大前提になることなので、敢えてそういった言葉を使わなくても町がいい形で進めていける裏付けがあればいいと思います。また、「力強い産業と雇用を創る」とありますが、私は農業従事者で農業サイドが自分たちの町に

ついて、今後考えていかなければならない課題がたくさんあるという自覚はありますが、(それよりも) 第2次産業従事者がこの20年間で半分に減少しているということが今後の魅力的なまちづくりという観点では残念に感じます。力強い産業という言葉掲げるなら、そういった部分も何とかしなければならぬと思います。

L委員：人口減少に歯止めをかけたいというのはよく分かりましたが、町外に向けた発信は十分に行っているのでしょうか。行っていないのなら、もっと力を入れてやっていくべきではないでしょうか。

M委員：14歳以下の子どもの数が増えるような魅力あるまちづくりをしてほしいです。

N委員：離農者が非常に多くなってきているので、離農者が訓子府に住みながら経験やキャリアを生かせるような新しい仕事を考えてほしい。シルバーの方(高齢者勤労センター)もいますが、そういう部分も考えてほしいです。他の町の人から訓子府はいいねと言われるのは、バス運賃補助や子どもインフルエンザワクチンの補助事業などですが、お金はかかるとは思いますがありがたいです。訓子府は農業の町なので、農協の職員で高規格道路を走って北見へ通う方がいますし、置戸から清住を通して北見に通う方もいます。ちょうど中心になると思うので、そういう方に来てもらうことを考えるのもいいと思います。釧路に転勤した知人で、わざわざ転勤願いを出して訓子府に戻ってきた方もいるくらい訓子府は魅力のある町なので、何とか維持して欲しい。



O委員：自分の住む地域の農業人口の減少に歯止めがかかりません。計画には6次産業化への支援が載っていますが、農家当たりの農地面積がどんどん増える傾向にある中、1次産業についても支援があると助かります。

P委員：人口が減るのはどの町も同じなので、訓子府らしさを見つけ出して、長い目で見て育てていけばいいのではないかと思います。

Q委員：人は宝であり、人がいないと何もできないので、若い人たち、これから結婚される人たちがこの町で結婚して子どもを産んで子育てをしたいという夢や希望を持てるような思い切った手を打つべきだと思います。公務員など団体職員は、ある程度の所得が保障されていますが、民間の低所得の方は1人の子どもを育てるのがやっとで、2人、3人の子どもを産んで育てたいという希望を持つのは現状厳しいと思います。町としてそういう方々に思い切った支援をするということを考えて毎年少しでも子どもが増えていけば、すごい成果だと思います。他の町にできないことを先取りしてやっていくことを、知恵を絞って考えていくべきだと思います。そういう目的で町のお金を使うことには大賛成です。未来を担う人たちを確保することは大事ですので、手を打てることはしていくべきだと思います。

R委員：暮らしていく上で各個人の負担が増えていくと思うので、お互いが力を貸し合って暮らしていくような時代が来るとは思います。また、負担を減らすためにコンパクトな町にして生活しやすいようにすることが必要になるとは思います。

S委員：農業が大型化・機械化して人が少なくても成り立つから農業従事者が減っているのでしょうか。農協の機構が変わって、職員の入れ替わりがあって、農協に行っても誰かわからなくなっていますが、そういう方たちが北見から通っていたり、置戸から通っていたりするのでしょうか。そうした変化が人口減の要因になっている部分もあるのかなと思っています。訓子府で仕事ができる子どもを育てることができるということが大事だと思います。魅力がある場をつくることで人口減に歯止めがかかるし、若い世代が来れば人口増にもつながります。親が働いていても保育園に入れないという時期もありましたが、今は働いていなくても入れていいと思います。また、子育て

て支援センターもあり、訓子府の子育て環境はすごく充実していると思います。あとは親が働ける場所が必要になると思います。

T委員：人口減に関して、20代から40代の転出が多いのは住宅の問題があると思います。同年代でも住むところがないから北見に行くというのがありますし、北見から来たいけど住むところがないから来られないというのはあると思います。訓子府にはこども園やこれから建設するスポーツセンターもありますし、魅力のあるものがたくさんあるので住宅の問題を整理して若い世代が来るようになれば、先が見えてくると思います。また、もっと若い世代と話し合う機会を増やせば、もっと良い方向に進むのではないかと思います。

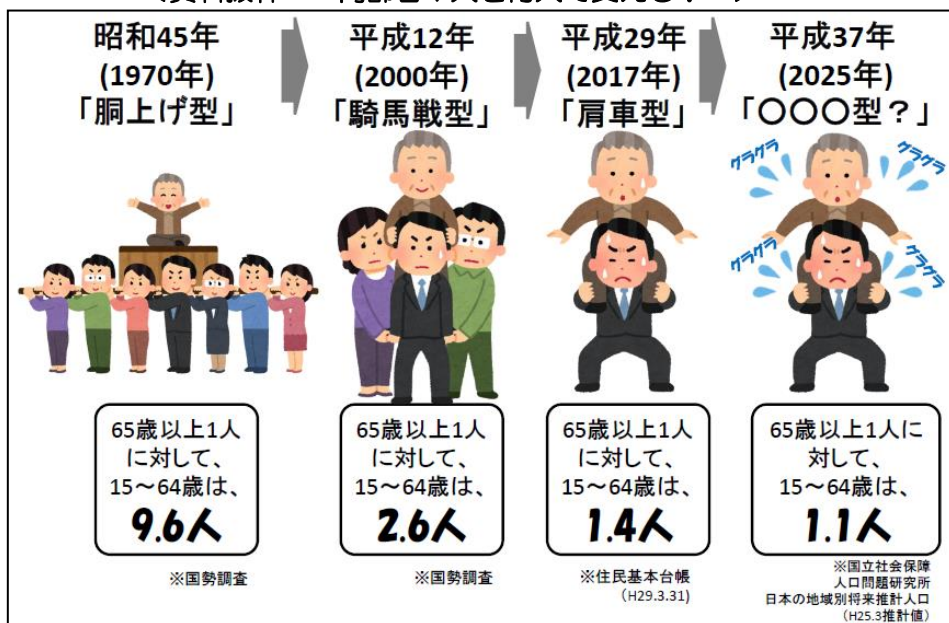
U委員：子どもの養育に関しては魅力的なようですが、自分たち自身の将来が不安です。私は農業従事者ですが、町はずれに住んでいて年を取った時に自分で車の運転もできなくなるといいますので、町に住むか、町外に出ないと暮らしていけなくなるといいます。また、離農される方への支援がないと同じような状況の方が増えると思いますので何とかしてほしいと思います。農業従事者の人数を維持していきたいということですが、もうちょっと農業が面白くなるといいと思います。せっかく地産地消を進めていくのであれば、作った農産品の加工場などがあれば、雇用も生み出せるといいます。

町長：さまざまな立場でのたくさんのご意見ありがとうございます。今回いただいたご意見は、しっかり受け止めさせていただいて、次回からの議論の中に反映させていきたいと思っています。

◆「ささえあい」をみんなで考える場～協議体について～

誰もが住み慣れた地域で最後までいきいきと心豊かに暮らせる社会に向けて、高齢者を地域で支える仕組みや必要なサービスの充実などについて検討を行う「協議体」が4月から活動を開始していますが、今回は、福祉保健課担当者により取り組みの概要を説明しました。

<資料抜粋 ～高齢者1人を何人で支える?～>



※まちづくり推進会議の議案は、訓子府町図書館内「訓子府町まちづくり情報コーナー」で閲覧ができます。